

## 学校生活に不適応傾向を示す生徒の指導

富 樫 猛\*

この研究は、学校生活にほとんど意欲を示さず、すべての行動にいいかげんなとりにくみしかできないFに対して、学級担任、部活動の顧問の立場から、教育相談的な態度で接し、「はり」のある学校生活をさせたいと考え、実践してたものである。その結果、Fに、ある程度の変容がみられる。

### I 研究の目的

今年の4月、へき地5級地、小中併設の極小規模校、過去数年間非行などの問題行動の全くない学校に着任した。私はここで男子4名、女子5名、計9名の学級担任となった。在校生との対面式で新入生を代表して挨拶するFの晴れの姿に接したときから私とFとのかかわりあいが始まった。そのFの学業不振、学習中の無気力、何に対しても意欲なしの状態が目につきだし、他の教師からも話題になってきた。

このFに対し、学校生活全般にわたり教育相談的な態度で人間的なふれ合いをはかり、「はり」のある学校生活ができるように援助し、指導を加え、彼の考え方や行動の変容をはかりたい。

### II 対象生徒と問題行動の概要

#### 1 対象 中学1年生(F)

#### 2 問題行動の概要

授業中は注意散漫でおちつきなく、外をながめているとか、となりの生徒に話かけているか、席を立てて人のところにでかけ迷惑をかけているのが毎日の授業風景である。

ときどき大きな声をはり上げたり、人のいやがることを得意然としてやったり、女生徒などがいやがるのを見て喜んだりしている。家庭学習は全々やってこないし、その意欲も必要感もないようである。従って学業成績はいたって不振である。身体は中ぐらいで、運動神経は普通である。清潔さはなく体臭がむんむんするほどである。また基本的な生活習慣はほとんど確立していない。

### III 本人の状況

#### 1 本人の記録、検査 (表1) 小学校での学業成績(5段階評価)

##### (I) 学業成績

##### (a) 小学校の記録

教科	国	社	数	理	音	図	家	体	注意散漫で算数の理解力が劣る。芸術面の技能は優れている。
段階	3	2	2	3	3	4	3	3	

\* 岩船郡朝日村立三面第二中学校

(b) 中学校の記録

(表2) 中学校での学業成績(但し1学期の成績)

教科	国	社	数	理	音	美	体	技	英
段階	3	2	3	3	3	3	2	3	3

(表3) 小学校での行動及び性格の記録

項目	評定	項目	評定
健康安全の習慣	B	創意工夫	B
礼儀	B	情緒の安定	B
自主性	B	協力性	C
責任感	B	公正さ	B
根気強さ	B	公共心	C

(2) 行動および性格の記録(小学校6年)

所見に、次のような記録がある。「精神的に幼稚な面があり、しまりがなく、注意されると深く反省するが、また同じことをくりかえす。反面、素直で明るい面は長所である。」どうにもくめない人間性をもっているようである。

(3) 学力検査(入学時の学力テスト)

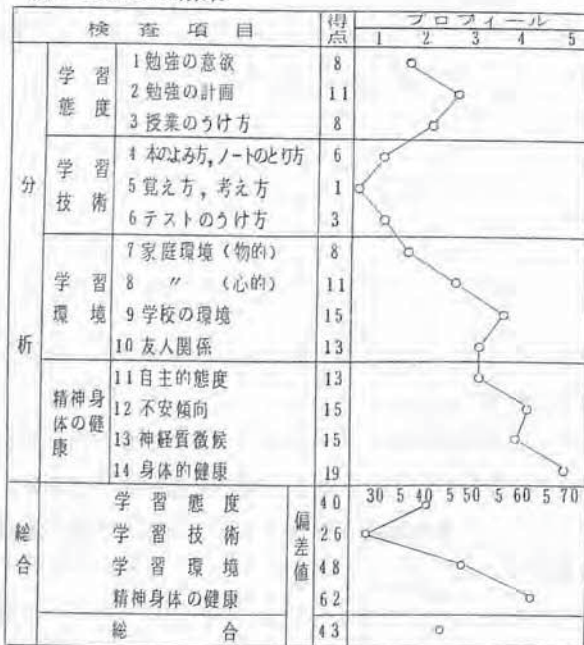
(表4) 入学時の学力検査(S50422)

教科	国	社	数	理
偏差値	38	39	47	46
段階	2	2	3	3

※ どの教科も学級平均よりかなり低い。特に国語、社会の苦手意識からくるおちこみが目だつ。

(4) 知能検査 教研式知能検査 S S 8 6

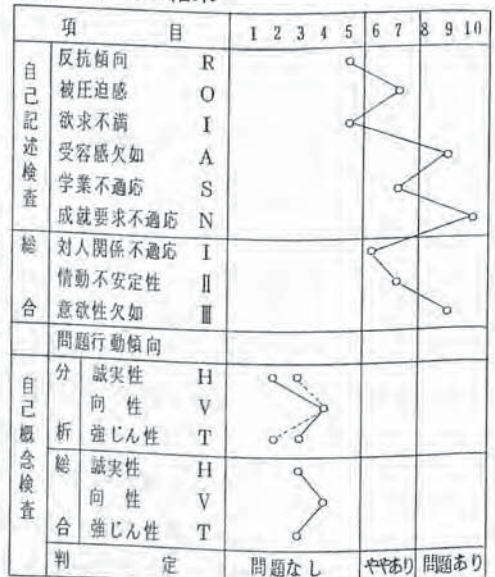
(5) A A Iの結果



(図1) A A Iの結果(S5057)

※ 学習態度では計画の段階までは普通であるが、やる気がないところに問題があり、学習技術の項目がすべて1の段階にあるところが問題であり指導、援助の必要がある。

(6) P P Cの結果



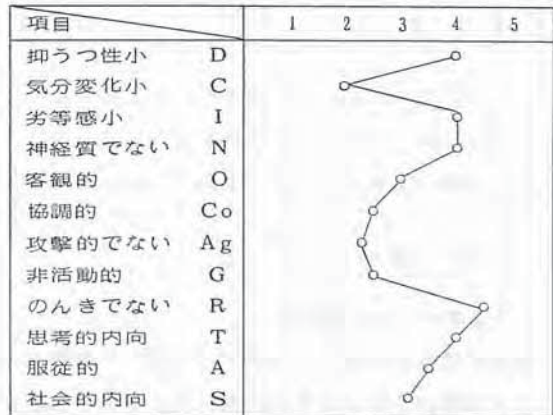
(分析、-は父について、...は母について)  
(図2) P P Cの結果(S506)

※ 家庭環境や、今までの生育にも関連すると思うが、受容感欠如、成就要求不適応、意欲性欠如の項に問題がみられ、教育相談的手法の必要があると思う。



(7) Y-Gテストの結果

判定としては、B型（不安定不適應積極型）という結果がでた。確かに日常の行動をみても、情緒が不安定であり、しかも内面的（陰でこそこそするタイプ）ではなく、相手を見つけて、人の迷惑など考えずに、行動することが多い。



(図3) Y-G性格検査プロフィール

2 家庭環境および生育歴

家族構成

父(50) 農業 母(47) 農業 姉(20) 東京洋裁学校 兄(18) 東京工員  
 兄(16) 高校生 本人 (姉二人は既婚)

本人は6人きょうだいの末っ子として、両親から特にかわいがられて成長した。現在はきょうだい達がみんな家を離れてしまって父母と本人の3人で生活している。父親は数年間部落の区長をつとめ部落民の信頼は厚い方である。しかしFに対しては非常に甘く、どちらかと云うと放任的である。母親の方は教育に関心があり、学級PTAなどはよくでてくる。しかし父親は毎冬出稼ぎに行くのでFに対するしつけ的な面は母親まかせになり、非常にあまい。従ってFの学校における基本的な生活習慣はでたらめといってよい。

学校では問題行動一歩手前の行為がしばしばあるが、家では、特に父親の前では気のつくとても良い子ということである。学校での生活ぶりからしてちょっと信じられない面もある。

なお乳児期から幼児期にかけては順調な生育で、小学校時代も風邪で5日間の欠席がある程度できわめて健康に育っている。

3 友人関係

中学生全員で19名という極めて小規模な小中併設校なので全員が友達といえはいえないこともない。しかもほとんどが何んらかの関係で親類同士である。Fの場合は遊び友達には不自由はしてないが、いわゆる真の友はいないようである。学級内では全くといってよいほど信望がない。

特に女子生徒からはきらわれてきえている。また上級生からも、たよりないところもあるためか、ほとんど相手にされていない。

IV 指導の経過

記録、諸検査、あるいは日常の観察からFに対しては何ごとに対しても「意欲をもたせる。」「最後までやりぬく強い意志をもたせる。」「成就感を味わせる。」ことが先決であると考え、次のような方針を立てて研究することにした。

## 1 指導の方針

- (1) 学習の目あてをつかませ、計画、方法、態度の改善を図り、自学自習の習慣を身につけさせる。
- (2) 部活動・係活動への積極的参加により学校生活に「はり」をもたせる。
- (3) 教育相談を通して好ましい人間関係をつくり充実した学校生活を送らせる。

## 2 指導の経過

### (1) 漢字テストに関して

本校では本校生徒の欠点の一つである「基礎学力の不足」を補うために本年度の重点目標にも掲げそのことを実践していくことになった。その一つとして国語科と数学科では毎週月曜日に漢字テストと計算力テストをやってきた。数回のテストをとおしてクラスのほとんどが真剣にとりくむようになった。平均点も90点をこえるものがほとんどである。ところがFの場合1回目は合格点であったが、2回目、3回目から例のやる気を出さなくなってしまった。そのことについて学級担任として教科担任としてF男にきいてみるとまことにたよりない返事しかかえってこないのである。「勉強してきた様子がないけど、いそがしかったの。」「えへへ……。」「みんな真剣にとりくんでいるよ、漢字テストは数もきまってることだし、頑張ってみなさいよ。」「……。」勉強の話になるとあまり話したがる。

家庭訪問などで母親の話では家庭学習は全々やってないとのこと、がっかりである。F男にとっては漢字テストも計算力テストも興味と関心がないらしい。

### (2) 学級日誌から

学級日誌にFが今日も体育の時間整列のしかたが悪く、先生にしかられたと記録されていた。体育だけでなく、数学の時間、保健の時等々である。体育の先生に様子を聞いてみるとだらだらしているので、全体の手前注意するけど、彼の行動は小学校時代からだから今さらどうしようもないのではないかとのことであった。Fを呼んできいてみると、注意されたそのときは確かにその通りだと思うのだが、時間がたつとつい忘れてしまい、また同じ行為を繰り返してしまうということである。注意深く観察してみると、教室でも卓球のときも清掃のときも二度、三度と注意しないとだらだらした行動がついでてしまう。どうも彼との試合は長期戦になるらしい。

### (3) 卓球の練習

彼の卓球練習はいつもの通り、自己本位で、気にいれば熱心にやるが、気がむかぬば練習をさぼり、一時間でも二時間でも姿をくらましてしまう。それも一人ではなく上級生の卓球をあまり好きでない友達とである。清掃をやっているときなどこちらから話しかけると結構じょうだん言ったりして話に乗ってくるところなどをみても彼のさみしがり屋の一面がうかがわれる。

彼の卓球技術は決して上手な方ではない。小学校のときからペンホルダーのラケットをつかっているが、手の振りが大きく、上半身が直立で、下半身が不安定なためフォームは常に不安定で連続的な動作がとれない。試合をするといつもビリの方である。しかし運動神経はそんなににぶいわけではなく、短距離競争などはわりと速い方である。こんな状態なので、Fに卓球は面白いかときくと「あまり面白く



ない。」という。その理由は色々あげているが、やはり自分の技術のことを第1にあげている。ちょうどこの頃同じ1年生でペンホルダーからシェークハンド用のラケットに切り替えた生徒がいたので、タイミングとしては丁度よいと考え、Fに「君も一緒にシェークハンド用のラケットにしてみないか。」という。最初のうちはあまり乗り気ではなかったらしいが、とにかくやってみなさいということで、やってみることにした。二・三日の練習をみているとペンのときとちがってカットもうまいしなかなかよい。ほめてやると、普段の彼にはみられないうれしそうな顔をみた。ちょっとしたきっかけではあったが彼との距離が一步せばまった感じがした。彼は今も先輩のラケットを借りてシェークで練習している。

#### (4) 村卓球大会

村の卓球大会に出場するためにはへき地校のため一泊しなければならない。19名全員が参加するのである。Fは1年生なので選手ではない。試合の前日に泊るわけだが、宿には卓球台があり練習をすることができる。その練習中のことであるが、1年生の男子4名は選手にはなれないが、一生懸命に選手のために二時間あまり、自主的にボール拾いをした。また練習が終わってから、練習場、廊下、部屋などの清掃を自主的によくやったので他の教師からもほめられた。

翌朝、顔洗いのときFに会って、昨日のことをほめてやったら、てれてはいたが、何かうれしそうであった。さらに昨日のような行動こそが、来年の後輩のためにも大切なことなのだ話してやると、彼の目はさらに生き生きと輝いていたことが印象深い。

#### (5) ワラビ取り大会

全校ワラビ取り大会のときのことである。現地まで4kmの道程でFと意図的に一緒になり、今日のワラビ取り大会について私の方が聴き役になり色々なことを話し合ってみた。Fがいうには、ワラビを取るときにはまず長さが一定でなければならないということ、また、太さについて、ひらき過ぎたものはかたくてだめであることなど、専門的なことを親切に話してくれた。

この大会は多く取ることを目的の一つにしているもので、小学校5年以上は中学生と一緒に4つの班に分かれて、各班で競争するのである。先生方も4つの班のどれかに入って競争に加わるのである。そのときFがやはり話してくれた。先生は今年来たばかりだから、ワラビは取れないだろう、先生がどの班に入るのか皆んな心配しているとのこと。それはワラビ取りの下手な先生が加わるとその班は成績がよくないので、新しくきた先生は自分達の班に来なければよいということである。それを聞いて私は苦わらいをすると同時に、ようやく二か月目でFの本音を聞いたような気がしてうれしくてたまらなかった。

#### (6) 郡市卓球大会

7月の2日、3日の両日、郡市卓球大会があり、男子団体が3位に女子団体が4位に入り共に下越地区大会に出場することになった。さらに個人戦でYがみごと優勝し、県大会に行くことになった。このことはへき地の子供達にとって大きなよるこびと同時に、自分達だってやればできるんだと云う大きな自信につながったと信じている。たまたまFにとってこの時期はシェークハンドに変えてちょうど1か月目、技術的にもかなり上達し、やる気がついてきたところであった。郡市大会のできごとの彼に与えた影響はかなり大きかったようである。彼の卓球に対するかまえ方や、仲間同士の問題などはほとんど必

要なくなってきた。

#### (7) 夏休み後のF

本校の夏休みの計画については、昨年まで休み全体を通じて目標を立てていたわけだが、それでは生徒のものにならないという反省で、今年度は夏休みを三つの分節に区切ってそれぞれの分節に学校側から目標を与えてやり、それを受けた生徒は自分なりに具体的な目標を立てることにした。そして夏休みが終わった時点で充実感が味わうことができることを最大の目標にしたわけである。

夏休み前の学級指導の時間も充分に取り、また夏休み中の召集日などでも充分指導することにした。Fの場合、卓球ではある程度の変容をみせはじめて来たが、こと勉強のことになるとそう簡単にはいかない。4回の召集日、2回の日番、2日間にわたるキャンプなどしつこいまでの個人指導と話し合いにより計画表には1期の目標に「卓球の練習と水泳を熱心にやり身体をきたえる。」2期は「家の人と話をしたり、読書を多くする。」3期は「2学期の学習の準備のため学習時間を2時間とる。」と彼なりの計画をたてた。

夏休みが終わってから課題として与えられていた、「夏休みの計画と反省」「夏休み帳」「習字練習百枚」「漢字練習300字」「社会科歴史年表」「対話記録」などをきちんと提出したことは、今までの彼の生活ぶりからして大きな変容であり、ある程度の成就感から彼に与えた自信というものはこれからのFにとって大きなものがあると信じたい。

## V おわりに

Fに学級担任として、部活動の顧問として接するようになり色々な面で勉強になったと思っている。生徒指導で大切なことは生徒理解であるという。わずか6か月で彼の何を知り、私の何を彼にわかってもらったかははなはだ疑問である。たまたま偶然にも学級担任以外に卓球部の顧問ということで彼と知り合ったのは、私にとって幸せであった。曲りなりにも現在は学校で学習面にはまだまだ多くの問題は残されているが、こと卓球練習に関しては参加の態度が前向きになり、目の輝きがちがってきたことは喜ばしいことである。

今、彼の課題としては、卓球で前向きな生活ができるようになったFを学習の面や生活指導の面でも生かされるよう指導、援助していくことだと考えている。しかもわずか6か月でFを変容せしめたなど大それた考えはない。むしろ生徒指導の究極的なねらいである「自己実現」のために、私とFの本当の人的触れ合いによる勝負はこれからだと考えている。